

一人芝居 「平和…そして命ありて」

原作：渡辺 司 / 出演・脚色：川下 祐司

自らも被爆者であった故 渡辺司氏は、ここ被爆地長崎にて「芝居」という形で平和への祈りを語り継いできました。

渡辺さんの亡き後、その遺志を引き継ぎ、原爆の悲惨さと平和の尊さを次世代の人々に語りつなぐため、被爆2世の川下祐司は公演を続けています。

長崎を修学旅行で訪れる学生の方々、観光で訪れる方々、そしてなにより未来を作っていく方々に戦争や平和について少しでも感じ、考えていただけるよう、「命ありて」という一人芝居をつないでいきます。

【原作者：渡辺司さんについて】

- 昭和7年 長崎市立神町にて生まれる
- 昭和20年 銭座町にて被爆（当時13歳）
- 平成7年 被爆50周年 朗読劇一人芝居を完成。「命ありて」として初演
- 平成23年 病魔と闘いながら公演を続けたが8月31日永眠。
安らかに幕を下ろした。

【川下祐司プロフィール】

- 文学座24期生
- 岡本愛彦氏（「私は貝になりたい」監督）に師事
- 演出家 藤原新平氏を師事し、演技と演出を学ぶ
- 平成元年 長崎に戻り劇団アクターズを設立
- 大村市民参加舞台「グッバイ！スミタダ」 演出補佐
- 長崎市民参加舞台「時空漂流記」 演技指導
- 長崎市民参加舞台「この霧が晴れたら」 演出
- 長崎市演劇協会 会長に就任
- 「命ありて」をはじめ、長崎市民演劇祭、学校公演など、年間十数本の芝居に出演
また演出を手掛ける

